

健康ウオッチング

東陽病院 院長 伊藤 文憲

腹痛について

今回は腹痛のお話です。腹痛は良くある症状です。皆さん経験しているはずで、腹痛は経過から急性、慢性、間欠性、周期性などに分けられます。部位、程度、吐き気などの関連症状により原因を推論します。なお、大学病院の外來を受診した腹痛の患者さんでは八割が消化器疾患ですが、二割は心因精神疾患や泌尿器・整形の疾患であり、腹痛かならずしも消化器疾患ではないと言う結果でした。

問診や診察の後に血液や尿検査、X線や超音波検査などが病気の鑑別のために行われます。更に胃内視鏡検査や大腸の検査などが計画されます。しかし、一番大事なことは、腹痛が薬の投与で様子を見るのが可能な疾患か、又は緊急の手術や内視鏡を用いた治療が必要な疾患かと言うことです。

前者は、原因の解明のため

の検査や薬の投与などゆっくりした治療が可能です。急性の胃炎から胃潰瘍、感染症を伴わない胆石症や急性膵炎などです。最近増加傾向にある過敏性腸症候群などではお薬の効果がすぐに現れず、何回も通院が必要な場合があります。腹痛が続く、吐き気や嘔吐、下痢などのために食事がとれない場合には点滴が有効です。脱水症状が強い場合は入院治療となります。胆道感染症や細菌性胃腸炎などで治療に難渋する場合にも入院治療が必要となります。

後者の疾患として消化管出血に対する緊急内視鏡治療が挙げられます。出血性胃潰瘍や食道静脈瘤破裂に、直接出血部位を観察して止血操作を行うことが可能です。

緊急手術の可能性のある疾患としては腸閉塞があり、強い腹痛が急激に起こり、腹部が硬くなり、吐き気や嘔吐が続きますので誰でも重症感を感じる疾患です。早急に

入院しての治療が必要です。治療は、まず口から排液用の管を挿入し、小腸内の適切な部位に留置します。排液する事により症状が改善される場合には、閉塞の原因の検査に当たります。手術後の腸の癒着による腸閉塞の場合にはこの排液法（ドレナージ）のみにて回復することもあります。原因が腸管の悪性腫瘍を含めた何らかの通過障害による場合には外科的切除術が必要です。このドレナージ法でも改善しない場合には腸管の壊死が起こる可能性があるので緊急の開腹術が必要となります。

急性の腹膜炎も緊急を要する疾患の一つです。急性虫垂炎（いわゆる盲腸）は最近では早期診断と治療によりお薬で治療することが多くなりましたが、治療が遅れると破れて周囲の限局性の腹膜炎からお腹中に広がる汎発性腹膜炎になります。この場合には緊急の手術が必要です。なお、腹部以外の他臓器に合併症のある患者さんが緊急開腹手術になる時にはスタッフのいる大きな病院での治療が必要な場合もあります。

特定疾患医療受給者票をお持ちの方へ 【更新申請のご案内】

- 対象者 特定疾患医療受給者票をお持ちの方
(有効期間：平成16年10月1日～平成17年9月30日までのもの)
- 受付期間 6月1日(水)～8月31日(水) 土曜日・日曜日・祝日は除く
- 受付時間 午前9時～11時30分
午後1時～4時
- 場 所 山武健康福祉センター（山武保健所）健康生活支援課

※問い合わせ先

山武健康福祉センター（山武保健所）健康生活支援課

☎0475-54-0611